

# ねこ

小川未明

青空文庫



黒ねこは、家の人たちが、遠方へ引越していくときに、捨ててしまったので、その日から寝るところもなければ、また、朝晩食べ物をもらうこともできませんでした。しかたなく、昼間はあちらのごみ箱をあさり、こちらのお勝手口をのぞき、夜になると、知らぬ家のひさしの下や、物置小舎のようなところにくまると、眠ったのであります。こうなると、いままでかわいがってくれた人々までが、

「そら、どらねこがきた。」といって、顔を出すと水をかけたり、いたずらつ子は、そばを通ると、小石を拾って投げたりしました。もとは、きれいな毛色であったのが、このごろは、どこへでも入るので汚れて、まことにみすぼらしい姿となっていました。

それに、黒ねこは、おいていかれたときには、もうお腹に子供があつたのです。きつと、情けを知らぬ主人は、「子供を産むとやつかいだから、捨てていこうよ。」といって、後に残したのであります。

かわいそうなねこは、どこで、自分の子供たちを産んだらいいかと迷いました。そして、毎日、方々を見て歩きましたが、ここなら安全と思うようなところはなかなか見つかりませんでした。人間にも油断ができなければ、犬や、また、ほかのねこたちにも、

けつして心を許せなかつたからです。

こうして、ほどなく母ねこになろうとする黒ねこは、自分の食べ物を探すことよりも、かわいい子供を産む安全な場所を見いだすことにいっしょうけんめいでありました。

とうとう、人家からはなれた森の中に、よきそうなどころを見つけました。そして、そこへ子供を産む用意をいたしました。やがて、三びきのかわいらしい、黒と白のぶちねこが産まれました。それからというもの、母ねこの心配は、いままでのようなものではなかつたのです。自分たちの隠れ場所に、雨や、風が、吹き込んでも子ねこには当てないようにして、子ねこは、いつもあたたかな母ねこのお腹の下で、安らかに眠っていました。日数がたつと、三びきの子ねこは、母ねこのお腹の下からはい出して、こおろぎや、かえるなどを追いかけたのであります。

母ねこは、じつと子ねこたちの遊ぶようすを見守っていました。もし、子ねこたちが、あまり自分から遠ざかろうとすると、

「ニヤアオ、ニヤアオ。」といつて、呼び止めました。

「あまり遠くへいつてはいけない。お母さんが、許すまでは、そんなに遠くへいくことはありません。」と、さもいいきかせるように見られたのであります。

ところが、ある日、母ねこが、外へ出かけて食べ物をさがして、森へもどつてくると、留守の間に二ひきの子ねこは、どこへいったか姿が見えませんでした。犬に食われてしまったか、人につれられていったか、それともみぞの中へ落ちてしまったか、母ねこが、声をからしてあたりをたずねましたけれど、ついに行方がわかりませんでした。二ひきの子供を失った母ねこの悲しみはどんなでしたでしょう？ 一夜悲しんで泣き明かしました。

母ねこは、せめて残った一ひきの子ねこをしあわせにしてやりたいと思ひました。「こんな森の中で、いつまでも暮らさせるのはかわいそうだ。やはりしんせつな人間のお世話にならなければならん。」と、母ねこは、考えました。

母ねこは、いたずらつ子のない静かな家をもつて、ある日、子ねこをつれて、一軒のお家へきました。その家には、きれいな奥さまとおばあさんの二人が暮らしていました。

「さあ、おまえは、あの奥さまのそばへいつてごらん。」と、母ねこは、子ねこを家の中へ入れて、自分は、物蔭に隠れて、ようすをうかがっていました。子ねこは、すがろうとして、奥さまのひざに上がろうとしました。これを見た奥さまは、

「まあ、いやだ」といつて、じゃけんに子ねこを外へ投げ出してしまいました。

母ねこは、子ねこをなめて、いたわりました。そして今度は、子供のあるお家へつれて

きました。やはり自分は、物蔭ものかげに隠かくれて、ようすをうかがっていました。

その家うちのお母かあさんは、いつも忙いそがしそうに働はたらいていました。子ねこねが、足あしもとにきて泣なくと、

「まあ、かわいらしいこと、正しょうちゃんも勇ゆうちちゃんもきてごらんさい。」と、おつしやいました。子供こどもたちは、たちまちお母かあさんのところへ飛とんできました。

「やあ、かわいらしいねこだな。お母かあさん、捨すてねのなら家うちで飼かってやりましょうよ。」  
 といつて、子供こどもたちは、かつお節ふしを削けずって、ご飯はんをやったり、大騒おおさわぎをしました。これを見みて母ははねこは、やつと安あん心しんして、

「どうか、達たっしや者しゃでいてくれるように。」と祈いのって、自分じぶんはどこへか姿すがたを消けしてしまったのであります。

# 青空文庫情報

底本：「定本小川未明童話全集 11」講談社

1977（昭和52）年9月10日第1刷発行

1983（昭和58）年1月19日第5刷発行

底本の親本：「小学文学童話」竹村書房

1937（昭和12）年5月

初出：「愛育」

1937（昭和12）年1月

※初出時の表題は「猫」です。

入力：特定非営利活動法人はるかぜ

校正：酒井裕二

2016年3月4日作成

青空文庫作成ファイル：

このファイルは、インターネットの図書館、青空文庫（<http://www.aozora.gr.jp/>）で作られ

ました。入力、校正、制作にあたったのは、ボランティアの皆さんです。

ねこ  
小川未明

2020年 7月18日 初版

奥 付

発行 青空文庫

URL <http://www.aozora.gr.jp/>

E-Mail [info@aozora.gr.jp](mailto:info@aozora.gr.jp)

作成 青空ヘルパー 赤鬼@BFSU

URL <http://aozora.xisang.top/>

BiliBili <https://space.bilibili.com/10060483>

Special Thanks

青空文庫 威沙

青空文庫を全デバイスで楽しめる青空ヘルパー <http://aohelp.club/>  
※この本の作成には文庫本作成ツール『威沙』を使用しています。  
<http://tokimi.sylphid.jp/>